

VI ごみの減量とリサイクル

1 審議会等

(1) 苫小牧市廃棄物減量等推進審議会

本市では、ごみの減量・再生利用等について、市民から幅広く意見を聞くため、条例に基づき、審議会を設置しています。

審議会は、学識経験者、市民（公募）、事業者、民間団体から選ばれた20人以内の委員で構成されており、任期は2年です。

平成31年4月から第13次審議会となっています。

(2) 苫小牧市資源リサイクル団体連絡協議会

苫小牧資源リサイクル団体連絡協議会は、各資源回収登録団体及び回収事業者から成る苫小牧資源リサイクル協同組合、加えて事務局として市の三者で構成されており、ごみの減量と資源化を全市的な運動とすることを目的に設立された組織です。この協議会において、集団回収活動が効率よく行われるよう情報提供及び資源回収団体の拡大などを行っており、また、リサイクルに対する知識を深めるため、再資源化企業の視察研修なども実施しています。

① 資源回収団体実績

	H27	H28	H29	H30	R1
登録団体	244 団体	247 団体	248 団体	248 団体	253 団体
リサイクルハウス設置助成数	5 台	6 台	4 台	0 台	3 台
資源回収団体奨励金交付額	19,679,391 円	18,920,235 円	17,845,332 円	15,945,498 円	14,590,168 円
助成対象団体	221 団体	231 団体	235 団体	225 団体	214 団体

② 資源の回収状況

(単位：t)

	H27	H28	H29	H30	R1
新聞紙	4,321	4,187	3,974	3,489	3,110
雑誌	426	346	300	274	284
ダンボール	1,624	1,584	1,482	1,362	1,295
紙パック	47	47	46	46	42
びん類	32	33	29	26	24
アルミ類	110	110	118	118	108
回収量	6,560	6,307	5,949	5,315	4,863

2 苫小牧市環境美化活動事業

生活環境の美化及び保全に関する活動について、市と町内会又は自治会が協働し、地域の大掃除やごみステーションのパトロールなどを行うとともに、情報共有に努めています。また、その取組を推進するため、環境美化活動事業助成金を町内会や自治会の世帯数に応じ交付しています。令和元年度は 80 団体に対し、9,878,000 円交付しています。

	H27	H28	H29	H30	R1
助成金交付額	9,784,000 円	9,848,000 円	9,797,000 円	9,828,000 円	9,878,000 円
参加団体数	81 団体	81 団体	80 団体	80 団体	80 団体

3 生ごみの減量・堆肥化

(1) 生ごみ堆肥化容器及び電動生ごみ処理機購入者に対する助成制度

家庭から排出される生ごみの自家処理を推進し、ごみの減量・資源化を図るため、生ごみ堆肥化容器（コンポスト容器・密閉式容器）及び生ごみ分解処理容器、電動生ごみ処理機購入者に対して助成金を交付しています。

① 生ごみ堆肥化容器（コンポスト容器・密閉式容器）

生ごみ堆肥化容器の購入助成を、平成 4 年度から実施しています。1 個の購入金額の 2 分の 1（3,000 円を上限）を助成し、1 世帯当たり 2 個までとしています。

	H27	H28	H29	H30	R1
助成個数	103 個	80 個	53 個	60 個	46 個
累計	9,462 個	9,542 個	9,595 個	9,655 個	9,701 個



② 電動生ごみ処理機

電動生ごみ処理機の購入助成を、平成 13 年度から実施しています。1 台の購入金額の 2 分の 1（30,000 円を上限）を助成し、1 世帯当たり 1 台までとしています。

	H27	H28	H29	H30	R1
助成台数	22 台	13 台	7 台	9 台	8 台
累計	433 台	446 台	453 台	462 台	470 台



③ 苫小牧市生ごみ分解処理容器購入助成事業

一般家庭及び事業者から発生する調理くず、食べ残し等の生ごみを微生物等により分解し、生ごみの減量化を促進すべく、「キエーロ」と「トラッシュファミリー」の購入助成を平成 30 年 6 月より開始しました。

	H27	H28	H29	H30	R1
キエーロ	—	—	—	15 個	4 個
トラッシュファミリー	—	—	—	75 個	45 個

(2) 電動生ごみ処理機貸出事業

平成 24 年度から、電動生ごみ処理機の利用により、その効果を実感していただくことで処理機の普及を促進し、生ごみの自家処理(堆肥化)による減量を推進する事業を実施しています。貸出期間は最大 1 か月で、現在処理機 6 台を申込順に無料貸出しています。

(3) 堆肥化方法の普及

平成 24 年度から、生ごみ堆肥化を促進するため、生ごみ堆肥化講習会を実施しています。

	H27	H28	H29	H30	R1
生ごみ堆肥化講習会参加人数（出前講座を除く）	159 人	54 人	18 人	140 人	135 人

4 拠点回収による資源化促進事業

ごみの減量と資源の有効利用を図るため、市内公共施設やスーパーなどに資源物の回収拠点を設置しています。

(単位：t)

		H27	H28	H29	H30	R1	備考
主要古紙 (リサイクルボックス)	新聞紙	107.43	98.15	82.08	77.97	64.64	H23.10 から回収。製紙原料としてリサイクル。
	雑誌	56.05	39.60	53.45	56.70	22.17	
	ダンボール	84.52	77.07	70.74	72.35	52.03	
	小計	248.00	214.82	206.27	207.02	138.84	
古着・古布		23.6	48.10	54.68	50.27	38.75	H21 から回収。 H28.4 から綿 50%未満も回収。ウエス等にリサイクル。
使用済み小型電子機器		31.78	34.06	46.47	34.25	28.45	H24.4 から回収。原材料としてリサイクル。
都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト		—	—	1.49	0.38	—	H29.7 から参加。 東京オリンピック・パラリンピックメダルにリサイクル。H31.3 終了
廃食用油		22.85	22.5	23.07	23.35	24.77	H19.11 から回収。 家庭から排出されるものに限る。 車両用代替燃料にリサイクル。
使用済み蛍光管		7.35	6.88	6.97	7.65	6.82	H25.7 から回収。 家庭から排出されるものに限る。 原材料としてリサイクル。

5 レジ袋削減に関する協定締結

平成 20 年 5 月に事業者と苫小牧消費者協会、苫小牧市の三者による協定を締結し、現在協定数は事業者 7 社、店舗数 25 店舗となっています。

なお、令和 2 年 7 月から全国でレジ袋有料化が開始されました。

6 エコストア認定制度

市民と店舗と市の三者が一体となり、ノーレジ袋の推進やリサイクル商品の販売等の環境負荷の低減に積極的に取り組んでいる店舗に対し、環境にやさしい店舗として認定する「エコストア認定制度」を実施しています。

また、平成 29 年度からは、苫小牧市有料指定ごみ袋の外装に認定店舗名を記載し、市民に PR しています。



令和元年度までの認定店舗数	63 店舗
---------------	-------

7 ペットボトルキャップの回収

本市では、資源の有効利用及び子どもたちに社会福祉貢献の関心を持ってもらうことを目的として、平成19年8月から市内小中学校等を通じてペットボトルのキャップ回収を実施しています。

集めたキャップは、廃プラスチック業者に売却し、その収益を発展途上国へのワクチン購入事業に取り組んでいるNPO法人「世界のこどもにワクチンを日本委員会」へ寄附しています。

	H27	H28	H29	H30	R1
回収量 (kg)	6,690	7,162	5,794	7,383	7,260
寄附額 (円)	59,099	61,967	62,573	45,487	40,078



8 使用済み割り箸リサイクル

平成19年6月から使用済み割り箸の回収を実施しています。「港まつり」や「スケートまつり」などのイベントや市役所内から排出される割り箸を回収し、市内製紙工場で紙の原材料として再利用しています。

	H27	H28	H29	H30	R1
回収量 (kg)	277	183	137	161	168



9 ごみの減量・リサイクルに対する意識の啓発

広報とまこまい、出前講座などを通して、市民にごみの減量、リサイクルの意識啓発をはじめ、小・中学生を対象とした副読本を作成し、次世代市民に環境教育を行っています。

10 リサイクルプラザ苫小牧の市民開放

「リサイクルプラザ苫小牧」では、家庭で不要になった家具や自転車などを修理・販売するとともに、市民工房で紙すきや布ぞうり作りなど、市民の自主的活動の支援を行っており、ごみの減量、リサイクルの意識啓発を図っています。

	H27	H28	H29	H30	R1
入館者数 (人)	29,228	31,176	28,991	26,919	21,814